

福島県スポーツ推進基本計画における目標の達成状況と今後の取組について

指標の評価方法 A:100%以上 B:99~80%以上 C:79%~70% D:69%以下

施策の柱	指標 (*は県総合計画の指標)	令和5年度の 主な取組事業	目標値 (R5)	令和5年度 現況値 (見込値) 12月末現在	令和4年度 現況値	R5目標値に 対する 達成状況	達成率 評価	目標値 (R6)	目標値 (R12)	令和5年度の達成(見込)状況と今後の取組																									
1 生涯スポーツの推進に関する取組	代表指標																																		
	*成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率	<p>【スポーツ課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>輝け未来へ！スマイルスポーツ教室inふくしま</li> <li>福島県総合スポーツ大会</li> <li>地域スポーツ大会の開催</li> </ul> <p>【スポーツ協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども運動啓発事業</li> <li>スポーツ情報提供事業</li> <li>市町村体育大会開催事業への助成</li> </ul> <p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の健康・生きがいづくり事業</li> <li>ニュースポーツによる高齢者の健康作り支援事業</li> <li>老人クラブ活動等社会活動促進事業</li> </ul> <p>【文化振興課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チャレンジふくしま県民運動推進事業</li> </ul> <p>【スポーツ振興基金】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯スポーツの振興に対する事業への助成</li> </ul>	51%	41.3% ※県政世論調査  (47.8%) ※体力・運動能力調査	45.4% ※県政世論調査  (52.3%) ※体力・運動能力調査  (49.7%) ☆国の世論調査(福島県のデータ)	81%	B	53%	65%	<p>R5達成状況(事業評価)</p> <p>新型コロナウイルス感染症が5月に5類感染症に移行し、制限のない中でスポーツ活動が可能になったことで、各地で多くのスポーツイベントが開催された。そのうち、県としては、子どもと子育て世代を対象とした「輝け未来へ！スマイルスポーツ教室inふくしま」や「親子体操教室」、若い世代から高齢者までを対象とした「地域スポーツ大会」、高齢者を対象とした「すこやか福島ねりんピック」など、それぞれのライフステージに応じたスポーツ機会の提供に取り組んできたが、実施率は令和4年度より減少し目標値に達しなかった。要因としては、気象庁の「熱中症警戒アラート」の発表が令和4年度は2回だったのに対し、令和5年は19回発表されるなど、熱中症予防の観点から運動を控える傾向にあったことが考えられる。また、人々の仕事の業務形態やライフスタイルがコロナ禍前と同様に戻ったことで、運動・スポーツに費やすための時間を確保することが難しくなると推測される。加えて、実施率が低い働き世代や子育て世代への働きかけが弱いことも一因と思われる。</p> <p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各世代の実施率                     <table border="1"> <tr> <td>子育て世代(20歳から49歳)</td> <td>県政世論調査</td> <td>34.3%</td> <td>体力・運動能力調査</td> <td>41.3%</td> </tr> <tr> <td>働き世代(35歳から59歳)</td> <td>県政世論調査(※30歳~)</td> <td>38.6%</td> <td>体力・運動能力調査</td> <td>41.1%</td> </tr> <tr> <td>高齢者(65歳から79歳)</td> <td>県政世論調査(※60歳~)</td> <td>44.2%</td> <td>体力・運動能力調査</td> <td>62.3%</td> </tr> </table> </li> <li>男女別の実施率                     <table border="1"> <tr> <td>男性</td> <td>県政世論調査</td> <td>43.7%</td> <td>体力・運動能力調査</td> <td>54.9%</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>県政世論調査</td> <td>32.2%</td> <td>体力・運動能力調査</td> <td>40.6%</td> </tr> </table> </li> <li>実施できなかった主な理由(県民の運動・スポーツに関する実態調査)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事や家事が忙しいから(48.5%)</li> <li>面倒くさいから(12.0%)</li> <li>生活や仕事で体を動かしているから(5.8%)</li> </ul> </li> </ul>	子育て世代(20歳から49歳)	県政世論調査	34.3%	体力・運動能力調査	41.3%	働き世代(35歳から59歳)	県政世論調査(※30歳~)	38.6%	体力・運動能力調査	41.1%	高齢者(65歳から79歳)	県政世論調査(※60歳~)	44.2%	体力・運動能力調査	62.3%	男性	県政世論調査	43.7%	体力・運動能力調査	54.9%	女性	県政世論調査	32.2%	体力・運動能力調査	40.6%
	子育て世代(20歳から49歳)	県政世論調査	34.3%	体力・運動能力調査	41.3%																														
働き世代(35歳から59歳)	県政世論調査(※30歳~)	38.6%	体力・運動能力調査	41.1%																															
高齢者(65歳から79歳)	県政世論調査(※60歳~)	44.2%	体力・運動能力調査	62.3%																															
男性	県政世論調査	43.7%	体力・運動能力調査	54.9%																															
女性	県政世論調査	32.2%	体力・運動能力調査	40.6%																															
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、関係団体と連携し、スポーツイベントや体験教室等を開催するなど、様々なライフステージにおけるスポーツ機会の提供を行っていく。</li> <li>関係部署と連携し、「忙しく時間が無い」などの理由で運動・スポーツに費やす時間が確保できない世代に対し、仕事の合間などの隙間時間にできる運動の紹介や実技指導等を検討する。</li> <li>住民が身近な地域で運動・スポーツ活動に親しむことができる環境づくりに向け、市町村担当者等を対象に各地域の課題の把握と地域間の連携促進を図る会議等を開催する。</li> <li>報道やホームページ及び機関誌等を通じて、本県関係アスリートの各種大会での活躍や生涯スポーツやパラスポーツに関する取組を広く伝えることで、県民の運動・スポーツ実施に向けての意欲を喚起する。</li> </ul>																																		
関連指標																																			
①	*全国体力・運動能力、運動習慣等調査における新体力テストの全国平均との比較値(全国=100)	<p>【健康教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体力運動能力調査</li> <li>ふくしまっ子健康マネジメントプラン事業(体力向上ムーブメント事業)</li> </ul>	小5男: 99.1 小5女: 101.3 中2男: 99.5 中2女: 100.1	99.4 101.3 100.1 101.5	99.6 101.7 100.4 100.0	100.3% 100.0% 100.6% 101.4%	A A A A	99.3 101.4 99.5 100.1	100.0以上 101.9以上 100.0以上 100.2以上	<p>R5達成状況(事業評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体力・運動能力については、コロナ禍の影響が一因と考えられているここ数年間の体力低下からの回復傾向が見られ、全ての調査学年・男女で目標値を達成することができた。</li> <li>体育科・保健体育科の授業改善や「ふくしまっ子児童期運動指針」を参考にした児童の身体活動時間の確保、自校の体力的課題に応じた「体力向上推進計画書」の作成と実践、毎時間の体育の授業における「運動身体づくりプログラム」の実践、「自分手帳」を活用した健康マネジメント能力の育成等の効果が現れてきていることが考えられる。</li> </ul> <p>今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本県がこれまで取り組んできた体力向上の取組を継続していくことに加えて、「体育科・保健体育科の授業の一層の充実とさらなる取組」、「幼児期からの運動習慣形成の重要性に対する意識の醸成」について一層の推進を図る。さらに、小学生の週当たりの総運動時間が全国平均値と比べて短いことから、小学生が日常的に運動する時間を増やしていく取組やカリキュラム・マネジメントの推進に努め、児童生徒一人一人の健康課題の解決につなげていく。</li> </ul>																									
②	この1年にスポーツに関するボランティア活動を行った割合	<p>【スポーツ課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツボランティア・レガシー事業</li> </ul> <p>【スポーツ振興基金】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツボランティア支援事業への助成</li> </ul>	9%	29% ※県民実態調査	(9%)	322%	A	9%	11%	<p>R5達成状況(事業評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度から、国の体力・運動能力調査に合わせて実施した「県民の運動・スポーツに関する実態調査」においてスポーツボランティアの実施状況を調査したが、目標値を大きく上回る結果となった。</li> <li>新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、各地で多くのスポーツイベントが開催されたことが一因と考えられる。</li> <li>また、調査対象者が各市町村の競技団体や体育協会などのスポーツ団体関係者が多い傾向にあったことが、高い実施率に繋がったと推測される。</li> <li>「どんなきっかけや動機付けがあればスポーツボランティアを実施しますか。」という質問に対しては、実施者、未実施者ともに「好きなスポーツの普及・支援」が多く、続いて「地域での居場所、役割、生きがい」であった。</li> </ul> <p>今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロスポーツチームの活動や様々なスポーツイベントなどが今後も予定されていることから、継続して魅力や楽しさなどを伝える研修会を開催し、活動をはじめのきっかけづくりを行い裾野を広げる。</li> <li>イベント主催者や市町村などヘテランを配付するなどの情報提供を行い、スポーツボランティア人材の活動の入り口をさらに広げる取り組みを行う。</li> <li>地域におけるスポーツ大会やイベントの開催を積極的に支援することで、地域住民のスポーツボランティア実施のきっかけづくりを図る。</li> <li>現況値がすでに目標値(R12)を上回っているため、今後数年のデータを分析した上で目標値について再検討する。なお、「国の世論調査」の数値については、前年度の実績となるため、参考値として把握していく。</li> </ul>																									

指標の評価方法 A:100%以上 B:99~80%以上 C:79%~70% D:69%以下

施策の柱	指標 (*は県総合計画の指標)	令和5年度の 主な取組事業	目標値 (R5)	令和5年度 現況値 (見込値) 12月末現在	令和4年度 現況値	R5目標値に 対する 達成状況	達成率 評価	目標値 (R6)	目標値 (R12)	令和5年度の達成(見込)状況と今後の取組	
										R5達成 状況(見込) (事業評価)	今後の 取組
1 生涯スポーツの 推進に関する 取組	③ 学校体育施設(グラウンド及び体育館)の開放率	【スポーツ課】 ・市町村活動状況調査 ・学校体育施設開放状況調査	小・中学校 92%  高校 25%	小・中学校 97.5%  高校 25.2%	小・中学校 96.4%  高校 18.9%	小・中学校 106.0%  高校 100.8%	小・中 A  高 A	小・中学校 92%  高校 25%	小・中学校 95%  高校 35%	R5達成 状況(見込) (事業評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校の施設は、学校開放事業を実施している市町村が多く、また、部活動の夜間利用がほとんどないことから、地域において学校体育施設の利活用が進んでいると分析する。</li> <li>高等学校の施設は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、スポーツ活動をする際に制限がなくなったことで、開放率が上昇したと推測されるが、小中学校に比べ、休日や夜間も部活動を実施しているケースが多く一般に開放する余裕がないこと、また、学校施設開放時に職員を立ち合わせることが難しく、施設管理の面から開放できない学校が多いようである。</li> </ul> <p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校は、59市町村への調査結果、58市町村が体育施設を開放している。</li> <li>高等学校は、80校への調査の結果、77校がグラウンドを所有し、うち開放しているのは19校であった。</li> </ul>
	④ 市町村のスポーツ推進計画(単独)策定状況	【スポーツ課】 ・市町村活動状況調査	9市町村	5市町村	7市町村	55.6%	D	11市町村	24市町村	R5達成 状況(見込) (事業評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1町1村で単独計画から総合計画への位置づけとなり、単独でスポーツ推進計画を策定している市町村が7市町村から5市町となった。</li> <li>単独計画を策定しない理由としては、「スポーツ庁から通知された『地域スポーツ推進計画』の策定等に係る事務負担の軽減について(令和5年1月18日付け4ス庁第1721号)」により、必ずしも単独の地方スポーツ推進計画である必要はなく、市町村の総合計画等においてスポーツ行政を位置づけることも可能となったこと、計画を策定するための人材(マンパワー)が不足しているということがあげられる。</li> </ul> <p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単独のスポーツ推進基本計画を策定している 5市町</li> <li>総合計画等にスポーツ分野を含む 53市町村</li> <li>町村の総合計画等にスポーツ分野を含まない 1町(次期総合計画で位置づける予定)</li> </ul>
	⑤ 生涯スポーツに関する行事に参加した延べ人数	【スポーツ課】 ・福島県総合スポーツ大会 県民スポーツ大会  【スポーツ協会】 ・スポーツ情報提供事業 ・市町村体育大会開催事業への助成  【スポーツ振興基金】 ・生涯スポーツ地域連携事業 ・スポーツを通じた人(地域)づくり事業 ・ふくしまレクリエーションフェスタ支援事業	230,000人	182,123人	112,246人	79.2%	C	280,000人	368,000人	R5達成 状況(見込) (事業評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度は、目標値に届かなかったものの、令和4年度と比較して、参加人数は、約1.6倍(69,877人増)、行事の開催回数は、約1.2倍(398回増)であった。5月に新型コロナウイルス感染症が5類相当に移行した影響が考えられる。</li> <li>スポーツ振興基金やスポーツ協会では、スポーツ大会や教室、イベントなどを開催する市町村の活動を支援し、多くの県民がそれぞれの年齢や体力、技術レベル、目的に応じてスポーツやレクリエーション活動に参加できる機会がさらに増えるよう取り組んでいる。</li> </ul> <p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行事の開催回数 R5 : 2,764回 R4 : 2,366回</li> </ul>
⑥ *総合型地域スポーツクラブ事業への参加者数	【スポーツ課】 総合型地域スポーツクラブ支援アドバイザー派遣事業  【スポーツ振興基金】 ・総合型地域スポーツクラブ支援事業  【スポーツ協会】 ・総合型地域スポーツクラブ連絡協議会事業	79,000人	(135,297人)	175,488人	(171%)	(A)	79,000人	112,000人	R5達成 状況(見込) (事業評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の参加者数は、昨年度に比べ約40,000人減少する見込みである。</li> <li>令和4年11月から登録認証制度が始まったことで、未登録クラブの正確な実態の把握が難しくなったため、登録クラブのみの現況値となっていることが要因である。</li> <li>しかし、令和2年度より地域スポーツ活動再開支援事業として総合型地域クラブ等に対して支援したことや新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことなどにより、目標値に対しての参加者数は大きく上回っている。</li> </ul>	
										今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、多くの事業を実施してもらえるよう、広域スポーツセンター及び総合型地域スポーツクラブ連絡協議会と連携し、クラブの創設・育成や登録・認証に向けた指導助言を行うとともに、公認指導者資格取得の支援をすることで指導者の確保を行うなど、活動の充実を図りながら、更なる参加者数増を目指す。</li> <li>現況値がすでに目標値(R12)を超えているものの、新型コロナが5類に移行して間もないことや総合型クラブが部活動地域移行の受け皿の一つとなり得ることなどから、参加者数の増加率の予想が困難であるため、今後、数年のデータを分析した上で目標値について検討していく。</li> </ul>

指標の評価方法 A: 100%以上 B: 99~80%以上 C: 79%~70% D: 69%以下

施策の柱	指標 (*は県総合計画の指標)	令和5年度の 主な取組事業	目標値 (R5)	令和5年度 現況値 (見込値) 12月末現在	令和4年度 現況値	R5目標値に 対する 達成状況	達成率 評価	目標値 (R6)	目標値 (R12)	令和5年度の達成(見込)状況と今後の取組		
2 競技スポーツの 推進に関する取組	代表指標											
	*国民体育大会天 皇杯順位 (競技得点)	【スポーツ課・スポーツ協会】 スポーツふくしまビルドアッププロジェクト ・国体強化支援事業 ・リアライズスポーツ強化指定事業 ・拠点スポーツサポート事業 ・ジュニアアスリート強化指定事業 ・ふくしまシャイニングスタープロジェクト  双葉地区教育構想推進事業	35位以内 (420点以上)	42位 (328.75点)	41位 (333点)	83%	B	35位 以内 (420点以上)	20位台 後半 (480点以上)	R5達成 状況 (事業評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>競技団体の強化活動については、一般的な強化対策の他、伸び悩みが課題である少年種別の底上げを図るため、一部特化して団体種目の少年種別競技を指定し支援した。その結果、バドミントン少年男子が3位入賞したほか、バドミントン少年女子、ソフトボール少年男子、サッカー少年男女があと1勝で得点獲得となるベスト16まで勝ち上がった。</li> <li>競技団体のけん引役となるウエイティング・自転車競技・陸上競技において、着実に競技得点を積み上げた。また、弓道少年女子の優勝を始め、バレーボール6人制少年女子がインターハイ2位の長野県を破り7位入賞、ラグビー女子が東北総体を制し国体初出場を果たすなど女子の活躍も目立った。さらに、国体への派遣人数も前年を上回り、上記の少年種別を含む団体種目において11競技15種別が、あと1勝で得点圏内となる勝ち上がりを見せるなど、確実に事業の成果が見られた。</li> </ul>	
										今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>国民体育大会において、ウエイティング・自転車競技・陸上競技は、けん引役として持続的な得点獲得を図るために重点的に支援を継続する。</li> <li>国民体育大会や事前の強化合宿の際の帯同トレーナーの活用を強化費として認め、選手の能力が最大限に発揮されるようコンディショニングを整える取組を進める。</li> <li>課題に応じた競技力の向上を図るため、選手の発掘・育成・強化や指導者の育成を一体とした持続可能な強化体制の推進をバランス良く図る。</li> <li>具体的には、競技団体との協働・連携により、競技人口の確保、発掘・育成・強化の体制の確立(少ない競技者を大切に育てる)、財源の工夫による冬季競技の強化、少年種別(個人・団体)の強化による成年種別への移行(高校卒業後のふるさと選手としての活用)を図る。</li> <li>競技人口の確保については、課題を有する競技団体も多くあることから、県スポーツ協会の強化対策会議や競技力向上委員会を通じ、県内競技団体の先進的な取り組み事例の調査・研究を進め、競技団体と情報共有を図りながら、選手の確保に向けた取り組みを推進する。</li> </ul>	
関連指標												
	① *全国大会等で上位 入賞する競技者数	【スポーツ課・スポーツ協会】 スポーツふくしまビルドアッププロジェクト ・国体強化支援事業 ・ジュニアアスリート強化指定事業 ・ネクストアスリート支援事業  双葉地区教育構想推進事業	個人:135人 団体:30団体	個人:136人 団体:17団体	個人:108人 団体:14団体	101% 57%	A D	135人 30団体	145人 40団体	R5達成 状況 (事業評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネクストアスリート支援事業において、日本代表入りや国際的な大会で活躍を目指す若手アスリート(R5年度18人)の強化活動を支援し、このうち15人(83%)が全国大会で上位入賞(3位以内)した。</li> <li>双葉地区教育構想推進事業では、本構想ピクトリープログラムの対象となるふたば未来学園高校・中学校のバドミントン及びレスリング競技の部活動における専任コーチ等の招聘に係る経費を支援しており、その結果、国内大会はもとより、国際大会でも上位入賞を果たすなど目覚ましい成果を上げている。</li> </ul>	
	② 国際大会に出場する 競技者数	【スポーツ課・スポーツ協会】 スポーツふくしまビルドアッププロジェクト ・ネクストアスリート支援事業  双葉地区教育構想推進事業	70人	86人	81人	123%	A	70人	100人	R5達成 状況 (事業評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際大会に出場した86名の競技者においてジュニア世代の日本代表は29名であり、そのうち22名(76%)はふたば未来学園高校・中学校の(バドミントン・レスリング)選手である。一方、一般・ゆかりの日本代表は57名となり、そのうち36名(63%)は富岡・ふたば未来出身の(バドミントン)選手とJFAアカデミー出身の(サッカー)選手である。他競技においては、陸上、ハンドボール、水泳、スキー、ウエイティング、自転車、バスケットボール、ラグビーであり、過去に支援した選手を中心とした活躍である。選手、団体を選択した集中的な支援の効果が現れている。</li> <li>ふたば未来学園高校バドミントン部からは6名が世界ジュニア選手権大会に出場し、団体戦(国別対抗戦)では5位入賞を果たした。また、レスリング部においても世代別の世界チャンピオンが誕生し、専任コーチ等の招聘による中高一貫指導プログラムの効果が十分に発揮されている。</li> </ul>	
										今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネクストアスリート支援事業による集中的な支援を通じ、日本代表入りや国際的な大会で活躍を目指す若手アスリートに対し、国際的な競技力を身につけるための練習会や競技会等へ参加するための強化活動を継続して支援する。</li> <li>県内競技力の向上の観点から、双葉地区教育構想推進事業による支援を通じ、引き続き、世界を舞台に活躍できる人材育成を行うため専任コーチを招聘する。</li> </ul>	

指標の評価方法 A : 100%以上 B : 99~80%以上 C : 79%~70% D : 69%以下

施策の柱	指標 (*は県総合計画の指標)	令和5年度の 主な取組事業	目標値 (R5)	令和5年度 現況値 (見込値) 12月末現在	令和4年度 現況値	R5目標値に 対する 達成状況	達成率 評価	目標値 (R6)	目標値 (R12)	令和5年度の達成(見込)状況と今後の取組		
3 障がい者スポーツの推進に関する取組	代表指標											
	*障がい者スポーツ教室・大会参加者数	・県障がい者スポーツ大会 ・種目別スポーツ教室 ・運動導入教室 ・地域スポーツ教室	4,500人	2,830人 (3,230人)	2,300人	63% (72%)	(C)	4,800人	6,600人	R5達成 状況 (事業評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>県総合計画及び県スポーツ推進計画における本指標の設定時点では、令和5年度は新型コロナウイルス感染症から影響の払拭を想定した目標値を設定したが、実態としては令和5年5月によやく感染法上の位置づけが5類移行となるなど、社会的な感染症の影響が当初想定以上に伸びたことにより、本指標の主要数値である県障がい者スポーツ大会(R5.5月開催)の参加者数が伸び悩み、目標値の達成には至らなかった。(コロナ禍前=指標目標設定値の約半数)ただし、昨年度と比較すると約300名程度増加しており、次年度以降の参加者の増加幅をより見極めていく必要があると認識している。</li> <li>一方で、各種スポーツ教室はここ数年と比較し、参加者数が堅調に増加しているとともに、「スポーツからはじめる共生社会実現プロジェクト」で特別支援学校等でのスポーツ体験の実施件数が増えるなど、年度を通じて着実にコロナ禍からの回復及び身近にスポーツに触れられる環境が整備されつつあることから、次年度以降の目標値達成に向け事業を継続していきたい。</li> </ul>	
										今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツができる環境がコロナ前に戻りつつあることから、各種スポーツ教室を切れ目無く実施していくとともに、県障がい者スポーツ大会に参加しやすい条件や環境を整え、従来のホームページや県障がい者スポーツ協会広報誌に加え、各競技団体やパラスポーツ指導者協議会等との団体と連携し参加者を募る。</li> <li>このほか、「スポーツからはじめる共生社会実現プロジェクト」においてパラスポーツ体験教室出前講座等を積極的に活用するよう、特別支援学校や福祉事業所などに対し幅広く広報活動を行い、よりスポーツに身近に触れられる環境づくり及び気運醸成に取り組んでいく。</li> </ul>	
	関連指標											
	①	体育施設等のバリアフリー化の促進・合理的配慮の推進状況	公共社会体育・スポーツ施設数調査において、バリアフリーの設置状況の調査を行った。また、機会を捉え、各市町村等に働きかけを行った。	360件	384件	381件	107%	A	400件	750件	R5達成 状況 (事業評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度の調査では、381件であり、今年度は、3件増加の384件であった。令和3年10月1日施行のバリアフリー法が改正され、新規施設においては義務化されたことや、パラスポーツの普及発展及び共生社会実現に向けた取り組みが加速する中で、今後着実に増加していくことが予想される。</li> </ul>
										今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>出前講座の施設使用時や市町村参集の会議等において、障がいのある方が、スポーツをする際の配慮事項等のリーフレットの配布等を行い、バリアフリーや合理的配慮への理解促進を図る。</li> </ul>	
②	日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導者数等	JPSA公認パラスポーツ初級指導員養成講習会	270人	250人 (271人)	266人	92.6% (100%)	(A)	280人	340人	R5達成 状況 (事業評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年更新手続きが必要であることから、更新忘れや未更新の方がいる。</li> <li>今年度は、初級パラスポーツ指導員養成講習会に21名の受講生が参加した。新たに21名が新規登録の予定となることから、目標値は達成できる見込みである。</li> </ul>	
										今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>協会だよりに掲載するとともに、パラスポーツ指導者協議会の各支部と連携し、有資格者への更新手続きを促す。</li> <li>パラスポーツ指導員養成講習会の受講生を確保するために、大学と連携したサポーター育成講習会に参加した学生に対して受講を促す。また、特別支援学校、福祉事業所、総合型スポーツクラブなどに幅広く周知する。</li> </ul>	

指標の評価方法 A: 100%以上 B: 99~80%以上 C: 79%~70% D: 69%以下

施策の柱	指標 (*は県総合計画の指標)	令和5年度の 主な取組事業	目標値 (R5)	令和5年度 現況値 (見込値) 12月末現在	令和4年度 現況値	R5目標値に 対する 達成状況	達成率 評価	目標値 (R6)	目標値 (R12)	令和5年度の達成(見込)状況と今後の取組		
4 オリンピック・パラリンピックの推進に関する取組	代表指標											
	◇あづま総合運動公園の利用者数及びJヴィレッジの来場者数	東京2020オリンピック・パラリンピックレガシー事業(あづま球場聖地化事業・レガシードリームプロジェクト)	2,040,000人	1,486,216人	1,877,589人	72.8%	C	2,180,000人	2,510,000人	R5達成状況(事業評価)	<p>&lt;指標について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あづま総合運動公園の利用者数は、オリパラレガシー事業で誘致した各種大会等(日米対抗ソフトボール等)やその他のイベント等の開催があり、12月末の前年度同月比で93.9%となっているものの、その他の大会等の開催状況や天候等により、目標を達成することが難しい見込み。</li> <li>Jヴィレッジの来場者数については、12月末で前年同月比91.7%となっており、目標値達成のため、引き続き取り組んでいく。</li> </ul> <p>&lt;主な事業について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あづま球場聖地化事業(あづま球場利用者数12月末実績:78,594人)</li> <li>競技団体等と連携して誘致した、8月に開催された「日米対抗ソフトボール2023」や9月に開催された「JD.LEAGUE2023」のほか、その他の大会等の開催状況や天候等により、12月末利用者数が前年度同月比94%となっている。</li> <li>都市ボランティアの支援(ボランティア参加人数12月末実績:174人)</li> <li>あづま球場で開催された大規模大会を始め、その他の県のイベントなど、機会を捉えてボランティア活動を提供した。</li> <li>1月に都市ボランティア交流会を開催し、活動に対するモチベーションの向上を図り、ボランティア活動の継続につなげた。</li> <li>ドリームプロジェクト(イベント等参加人数12月末実績:976人)</li> <li>11月にあづま球場において、オリンピックによるトークショー等からなる「ドリームミーティング」を開催。また、9月に開催されたJD.LEAGUE2023において、スポーツ体験コーナーを設置し、スポーツに親しむ機会の創出に努めた。</li> </ul>	
										今後の取組	<p>&lt;指標について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、オリンピック開催地のメリットを活かしながら、競技団体等と連携して、あづま球場への各種大会やイベント等の誘致に取り組むことにより、あづま球場の魅力向上(聖地化)に努め、球場の利用促進とスポーツを通じた交流人口の拡大を図る。</li> <li>大会等の開催に併せ、県産品のPRや都市ボランティアによるおもてなし等を実施する。</li> </ul> <p>&lt;主な事業について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あづま球場聖地化事業</li> <li>上記、指標に関する取組と同様</li> <li>都市ボランティアの支援</li> <li>引き続き、あづま球場で開催される各種大会を中心に活動機会を提供するとともに、活動意欲を高めるためにボランティアに関する情報提供等を実施する。</li> <li>ドリームプロジェクト</li> <li>課内の既存事業(アスリートを招聘したスポーツ教室等)と統合する。</li> </ul>	
	関連指標											
	①	この1年にスポーツに関するボランティア活動を行った割合(再掲)	1 生涯スポーツの推進に関する取組 関連指標②に同じ	9%	29%	(9)	322%	A	9%	11%	R5達成状況(事業評価) 今後の取組	1 生涯スポーツの推進に関する取組 関連指標②に同じ
②	生涯スポーツに関連する行事に参加した延べ人数(再掲)	1 生涯スポーツの推進に関する取組 関連指標⑤に同じ	230,000人	182,123人	112,246人	79.2%	C	280,000人	368,000人	R5達成状況(事業評価) 今後の取組	1 生涯スポーツの推進に関する取組 関連指標⑤に同じ	
③	国際大会に出場する競技者数(再掲)	2 競技スポーツの推進に関する取組 関連指標②に同じ	70人	86人	81人	123%	A	70人	100人	R5達成状況(事業評価) 今後の取組	2 競技スポーツの推進に関する取組 関連指標②に同じ	
④	体育施設等のバリアフリー化の促進・合理的配慮の推進状況(再掲)	3 障がい者スポーツの推進に関する取組 関連指標①に同じ	360件	384件	381件	107%	A	400件	750件	R5達成状況(事業評価) 今後の取組	3 障がい者スポーツの推進に関する取組 関連指標①に同じ	